



PTAって何？

～PTAと学校の関係は？～

- ◆地域の小学校PTAでバザーをやっているのだが、その収益金で以前は子どもたちを対象とした観劇会を開催していた。今は、市の予算がついて学校主催の観劇会をやるようになったので、バザーの収益金の使いみちがなくなった。それならバザーをやめればいいのに、バザーはやめない。収益金を出してしまうから、その使い道に困って、今は部活動のユニフォームをそろえたり、部活動の子どもたち全員共通のTシャツを買ったりしている。
- ◆中学校ではPTAの会計から部活動援助費を出している。
- ◆PTAのお金の使い方や学校支援ボランティアのあり方に大いに疑問を感じたので、先日教職員組合に行って、他の学校の様子を聞いてきました。中学校はもちろん、最近は小学校でもバザーを行ってその収益金で部活動のユニフォームを買ったりするという学校が増えてきているとのこと。
- ◆それは学校に対する寄付行為ですよね。以前教育委員会に問い合わせたときは、「学校に対する寄付は教育委員会を窓口にして行ってもらっている」ということだった。教育委員会はこうした実態をつかんでいないのではないか。
- ◆「学校にはお金がない」と校長先生がいつも言っていましたよ。
- ◆部活動にそんな立派なユニフォームが必要ですか？ 学校にお金がないのなら、学校本来の教育活動に必要なものを買えるように、PTAと一緒に行政に交渉するというところをするのが役割でしょう。
- ◆学校は何のためにあるのかということをも根本から考えていかないと。

PTAという組織そのものを維持していくということ自体が危うい

- ◆バザーと廃品回収の収益金は特別会計に入って、PTA活動には使われませんが、その特別会計の繰越金が約90万円ある。一般会計の予備費が100万円もある！
- ◆活動を何もやっていないからお金が残ってしまう。委員会の活動費を見ると、広報委員会が10万円、文化委員会1万円、学年委員会6500円、校外委員会1000円…委員会活動費の合計が122,500円。文化委員会がやっている活動はパトロールだけ。講演会、学習会など全くやっていない。
- ◆こんなにお金が残っているのなら、普段呼べないような人を呼んで講演会を、地域の人にも呼びかけてやることを考えましようと言ったのですが。
- ◆平日の午前中に講演会を開いても、参加する人が限られてしまう、いつも決まった人しか来ないからと、講演会を開かなくなってしまった。
- ◆参加者が少なくても講演会をやって、その記録をつくって会員の人に報告する。
- ◆PTA活動が大変だからと年々いろいろなことを削ってきているけれど、削るべきところを削らず、削ってはいけないところをどんどん削ってきてしまっている。PTAとは何かというところを押さえていないからそうになってしまう。
- ◆お母さんたち、忙しい人がほんとうに多くて…。貧乏でなくても子どもが小学校に入ったら、皆働き始めている。子どもの教育のことを、率先して学校と関わってやっていこうという人は、現実として減ってきている。学校行事とかPTAがどういうことをやっている

かということに関心がない人がほとんど。講演会をやろうとしても、関わらないし、参加しない。そういう現実の中でPTAという組織そのものを維持していくということ自体が危うい。

PTAは親と教師が共に子どもの教育を考える場

- ◆うちの学校は昨年保護者会からPTAになりました。校長がPTAにして、もっと学校教育に協力してほしいと。その前の校長の時は、PTAをつくってお手伝いをしてほしいということを前面に出しすぎてしまって、失敗したんですけど。パトロール活動をしてほしかったらしい。そういう学校側のニーズがある中、PTAという組織がどういうふうに学校と共に在れるかというのはとても問題。
- ◆PTAがパトロール活動をする時、どうしても子どもたちを取り締まるという目になってしまうことがある。なのでうちのPTAではパトロール活動をやめました。
- ◆以前は校外委員会でパトロールをやっていましたが、委員会でパトロールをするのは大変だからと、会員全員に呼びかけてパトロール係をしてもらうように変わっていました。
- ◆忙しくてPTAに参加する人が少なくなっているのなら、そのPTAが本来の活動をしているのかどうか見直す、本来の活動をしているのに参加者が少ないのなら、どうしたらみんなが関われるのか一生懸命考える。でも、ただただPTAという形だけ残っていて、PTA本来の活動もせず、学校行事や教育活動へのお手伝いばかりしている。そのお手伝い係をポイント制で親たちに半ば強制的にやらせているのでは、みんなPTAが嫌になってしまう。こんなPTAならいらないとさえ思ってしまう。
- ◆PTA主催の懇談会、クラス懇談会や学年懇談会、地区懇談会など、本来の活動を行っていない。集まりは悪くても、なるべく多くの親たちに参加してもらえるような工夫をして、そういう活動を重ねていくことが大事。
- ◆PTAは親と教師が共に子どもの教育を考える場。特別な行事をしなくても、子どもの教育について話し合いができる場があればいい。
- ◆たとえ学校主催の保護者会であっても、そこでそれぞれが抱えている問題、悩んでいることを出しあって話し合えればいいのだが、それもできていない。



振り分けすればいいんです

これはPTAがやること、これは学校がやることってね

- ◆PTAのバザーは子どもにお金を使わせる。一年生の子が500円持って行って、それでは足りないという。こんなに子どもにお金を使わせるバザーはおかしい。
- ◆昔は親たちにも時間の余裕があったから、教室に暗幕を張ってお化け屋敷や迷路をつくったりした。各委員会で輪投げとかヨーヨーつりとかのコーナーを受け持った。もちろん子どもからお金はとらない。
- ◆お金を出せば何でもできるという形になっているのはやはりよくない。
- ◆子どものために活動するということが、目に見える労力の提供とお金を出すということになってしまっている。
- ◆子どもが育つために何が必要かを一緒に考えて、根本的な解決のために動くというのがPTAだと思う。
- ◆例えば、中学校にも給食をという時に、署名を集めるという活動をしました。

- ◆図書室を開けるために親たちがボランティアで入るのではなく、図書館司書を配置してくださいと行政に要望すべき。松戸市では、昨年から小学校4校に学校図書館司書を固定配置しており、うちの学校はその中の一つで、常に図書館司書がいるはずなのに、毎日図書室を開けるためにと図書室ボランティアを募集しています。図書館司書が配置されていることがボランティア募集のお手紙にも書かれていない。司書からの手紙でボランティア募集というのならまだわかりますが。
- ◆子どもたちは5・6年生になると委員会活動をしていて、図書委員の仕事の中に図書の貸し出しもある。親たちがボランティアで貸し出しの仕事をしていたら、図書委員の仕事を子どもたちから奪ってしまうことになる、ある先生は言っていました。
- ◆田植えの時も、稲作委員の子どもたちが苗を持ってやっていたのを、PTAの文化委員の親たちがやるようになってしまった。親が関わるべきところと、関わってはいけないところがある。稲作委員の子どもたちの出番をとってしまってはいけない。
- ◆授業参観と同じで、親が関わることは参観して、その感想を先生に話すことくらい。そこに手を出してはダメ。
- ◆学校の手伝いをしたいという親たちがいっぱいいるんですね。
- ◆それは個人でやればいい。PTAとして手伝ってはダメ。やりたくない人もいるのだし。
- ◆PTAが引き受けてしまって、今度は大変だからと会員全員に仕事を振って…。
- ◆いったいどこからPTAを変えていけばいいんでしょうね。
- ◆振り分けすればいいんです。これはPTAがやること、これは学校がやることってね。
- ◆PTAの事業仕訳！
- ◆学校の主人公は子どもたち。子どもたちをお客さんにしない。子どもたちの自主性を奪わない。PTA活動にも、そういう視点が必要。
- ◆子どもたちを楽しませようとか、足りないものを買ってあげようとか、そういうふうになっている。
- ◆PTAで一番大切なことは、学校で先生と親がコミュニケーションをとって、信頼関係をつくること。一緒に子どものことを考える土壌をつくること。そういう場をつくるのがPTAの仕事。
- ◆今のうちに、親に学校の手伝いばかりさせていると、「親に手伝わせて、先生はいったい何をしているの？」と陰で言う親たちが増えてくる。親の出番が少ない学校を選択するというように、PTAのあり方が学校選択の理由になる場合がある。
- ◆PTAは親自身の学習の場でもある。親が学習することで子どもに跳ね返っていくこともある。親が『子どもの権利条約』をまず学ばなければ、子どもに権利条約のことを話せない。



学校のお手伝いばかりのPTAだったら、面白くないから誰もやろうとしない

- ◆親が忙しすぎていっぱいいっぱい。いかに単純作業でPTAに関わったことにするか、そればかり考えている。
- ◆昔から参加者は少ない。限られた人しか参加していない。やれる人がやっていた。でも、今は「やれる人がやる」ということが通用しない。
- ◆私は仕事していなかったし、PTAはおもしろいから毎年「委員やります！」と立候補していた。今だってできる人はいるはず。できる人ができる範囲で活動すればいい。今のうちに学校のお手伝いばかりのPTAだったら、面白くないから誰もやろうとしない。

- ◆なぜ、学校のお手伝いを減らそうとしないのだろう？ むしろ増やしている。
- ◆今までやっていなかった仕事まで引き受けている。
- ◆都内で小学校の教員をしている人が、「都内の同じ規模の小学校では先生たちがみんなやっているよ。これ、お母さんたちやりすぎだよ」と言っていました。
- ◆そういう声を誰もあげられないのか。本来PTAは「加入しません」とも言える、任意団体。任意団体なのに、半強制的に気がついたら加入しているような状況にしておいて、入ったからにはみんなが同じような仕事をしなくてはいけない。「子どもが卒業するまでの6年間に6ポイントとってください」なんて言われちゃう。
- ◆PTAが任意団体だということすら、皆知らない。役員すら知らない。
- ◆入学前説明会の時に、PTAの説明をして、ぜひ入会してくださいと会長挨拶をするんだけど、うちのPTAでは入会申込書を書いてもらってなかった。
- ◆任意団体だと説明すると、皆入らなくなってしまうのではないかと不安に思って説明しない。
- ◆子どもが学校で教育を受ける時に、親と教師が関わっていかなければ良い環境はつくれないということで、入らなは任意だけれども、参加しましょうということ。
- ◆子どもが毎日多くの時間を過ごす学校で、どんな教育を受けているのか、どんな友だち関係を育てているのか、親も忙しいけれど極力学校に足を運んで、一緒に考えていかなければと思う。ただ、働いている人がこれだけ増えている中で、多くの人に関われるPTAにするためにはいろいろな知恵や工夫が必要。



学校徴収金の多さ、教育費の父母負担の多さを どうしてPTAでとりあげないのか？

- ◆娘は、働くことで目いっぱい、「夜や休みの日の時間を割いてPTA活動をするのはイヤ」と言う。でも働いていることは理由にできないので、パトロール係を引き受けた。パトロールの時は、仕事を早退していかなければならない。授業参観も懇談会も、みんな平日だからその度に早退して出席する。パートだから早退すれば給料は減る。
- ◆「母子家庭で昼も夜も働いているから、委員はできません」と言う人もいました。
- ◆うつ病のお母さんがいたんですが、その事情を話せないから、委員や係をやらなければならない。乳がんの手術をしたばかりのお母さんも、こういうわけで引受けられませんかという手紙を書いてきて…。
- ◆プライバシーにかかわる病気のことまで言わなければならないなんて、おかしいですよ。公平に、皆が同じように委員をやらなければいけないということを変えなければいけない。
- ◆それって実は公平ではないですよ。不公平です。
- ◆それぞれ抱えている事情は違うのだから、できる人がやる。
- ◆子どもの貧困の状況はますます深刻になってきている。これはPTAと切っても切れない問題。
- ◆学校徴収金の多さ、教育費の父母負担の多さをどうしてPTAでとりあげないのか？
PTAでできることたくさんあると思う。
- ◆子どもの貧困の現状を知るだけでもいい。
- ◆松戸市内でも子ども食堂が4か所くらい動き始めている。今後増えていくと思う。
- ◆子ども食堂でできることには限度がある。それでも地域の人たちが見かねて取り組み始めている。それだけ深刻な状況になってきている。

- ◆見かねて動き始める人たちが増えていけば、それを見て周りの人たちが気付いていく。
- ◆貧困は自己責任というふうにとらえる社会的な目が根強いのだと思う。だから、貧困の状態にある人たちがそれを隠そうとする。
- ◆みんな自分たちで何とかしないといけないと思いつているのだけれど、それは違う。それを何とかするのが政治。
- ◆政治と生活は密着しているもの。
- ◆そういうことをPTAで勉強してほしい。貧困の問題は自己責任で解決すべきものではなく、誰もがそういう状態になりうることなのだから、最低限の生活は保障できるような社会にしないといけないと。

お金のことに親はもっと敏感になってほしい

- ◆教育費の父母負担の問題は、しっかり取り組まないといけないですよ。中学校の修学旅行に6万円以上かかる。これはあまりにも高額。できるだけお金がかからないように努力してもらおう。どうしても教育活動に必要なものは行政が予算を組む。どの家庭でも6万円というのは大きな金額だと思う。根本的に見直してもらいたい。
- ◆この修学旅行の費用は、以前は積立していたけれど、今は積立をしない。だから1度に支払わないといけない。
- ◆就学援助で修学旅行費用は支給されるのだけれど、立て替え払いしないといけない。そして立て替えた費用が戻ってくるのは年度末近く。全部の学校の修学旅行が終わってから、精算をして返すかららしいです。就学援助の認定は毎年行われ、4月に申請して6月に認定がされるので、その前に修学旅行があるから無理だと。この立て替え払いの制度を何とか変えたいですね。
- ◆やはり修学旅行の積立金をした方がいいですね。以前は1年生入学した時から、林間と修学旅行の費用は口座引き落としで積立していましたよ。なぜやらなくなったのだろうか。
- ◆小学校1年生の孫の学校徴収金の明細があるのだけれど、給食費、教材費、PTA会費等で年間約6万円。それを5月から2月までの9回に分けて口座引き落としされる。これ以外に、校外学習費は現金徴収。1年生だからピアニカ、算数セット、絵の具などの購入もお金がかかる。体操服、上履き、全部でいくらかかるんだろう。
- ◆一つ一つは少額でも、全部合わさると相当な金額になる。
- ◆こういうお金のことに親はもっと敏感になってほしい。「お金がかかって大変！」で終わらせないで、本当に必要なものなのか、父母負担しなければいけないものなのか、公費で出すべきものではないのか、声を出してみんなで考えてほしい。
- ◆また松P研としても、この父母負担の問題は取り組んでいかないといけないですね。PTAからの寄付についても教育委員会と交渉した方がいいですね。
- ◆部活動の問題も取り組まないと。取り組むべき問題がいろいろありますね。

(まとめ：浅井ゆき)